

活動名	おもしろ算数教室	活 動	<input checked="" type="checkbox"/> 定例 <input type="checkbox"/> 不定期
活動会場	大阪市立森之宮小学校 いきいき教室	報告者	二葉登代子
活動月日	令和4年5月6日	推進リーダー	二葉登代子
活動内容	算数マジックを楽しみその謎解きをする。算数パズルを解くことを楽しむ。これらを通して、考える力を養う。		
スタッフ名	二葉登代子、 中井芳江		
参加者	30名（1年生10名，2年生20名）		

活動概要（14：45～15：30）

I. 算数マジック：紐から落ちる鈴

II. 算数パズル：

1年生 ① 迷路0-1 ②迷路11-4 ③ 方陣1

2年生 ① スターシャイン1-0

III. 足し算 II

1年生の来るのが遅くなり、なかなか開始できない状態でした。

予定より15分も遅れて始められるようになった。そのうえ、1年生にとっては、初めての活動で戸惑いもあったようです。

3枚目の方陣になるころには、少しルを解くにあたっても同じようなことを感じました。それは、迷路2枚を解いた後の方陣は、予想より簡単に解き始めました。もう慣れたのでしょうか。

一方、なかなか集中しない子どものそばに座っている子どもが、一生懸命に教えているというよりは助けているのです。その姿に感動！慣れてきたようです。

所 感

早くやってきて、宿題をやり始めていた2年生の部屋に行って、マジックを披露したが、戸惑う中でも、おおきい拍手が出ました。しかし、その後1年生の部屋に戻り同じマジックを試してみたが、驚いている様子ではあったが、シーンとしている。お手伝いの方が拍手をすると、初めて何人かの拍手が聞こえてきました。「1年間でこれだけ成長するのだ」と感心して見ていました。

パズルを解くにあたっても同じようなことを感じました。それは、迷路2枚を解いた後の方陣は、予想より簡単に解き始めました。もう慣れたのでしょうか。

一方、なかなか集中しない子どものそばに座っている子どもが、その子に近づいて声を掛けています。普段私は「パズルを解く際には教えてはいけない」と言っていますが、様子を見てみると、教えているというよりは、助けているのです。その姿に感動しました！